

厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業（精神障害分野）  
総括報告書

New Long Stay 防止統合プログラムの有用性の  
検証と汎用性の確立に関する研究

研究代表者 伊豫雅臣（千葉大学大学院医学研究院）  
研究分担者 渡邊博幸（千葉大学社会精神保健教育研究センター）  
木村 大（千葉大学大学院医学研究院）  
小松英樹（千葉大学医学部附属病院）

研究要旨

1．研究目的

千葉大学病院精神神経科及び同大学社会精神保健教育研究センターにて立案した、『New Long Stay 防止統合プログラム』の導入前後各2年間における退院促進・地域移行・地域定着、更に職員の実務量や業務負担の変化を明らかとするとともに、他精神科病院への普及を図るための研修会や診療ツールの提供、本プログラムのマニュアル作成などを行う。

2．研究方法

『New Long Stay 防止プログラム』の医療法人学術会木村病院に導入前後各2年間(平成26-27年度と平成29-30年度)の臨床アウトカム、医業経営や労務管理について比較する。平成30年度は平成26-27年度に関して調査する。

また、他精神科医療機関へのプログラム導入の支援に関する研究として、千葉県や千葉市の精神保健福祉関係の行政職員や、複数の病因の医師や精神保健福祉士、訪問看護師、デイケア担当職員、ピアサポーター等を対象に地域移行・地域定着の方法論共有のための公開講座・研修会、ワークショップ等を実施する。

3．研究結果及び考察

木村病院への本プログラムの導入は通常診療の中に完全に組み込まれていた。また千葉大学医学部附属病院精神神経科と実行施設である単価精神科病院との間で、難治精神疾患患者の治療連携システムについても実務者間での構築が進められていた。

評価対象となる臨床指標について、データベースを構築し、数値の入力を継続的に行うとともに、医業経営および労務管理上の指標について、参照する資料の収集、整理を行った。すべてのデータ入力後、統計解析に供する予定である。

他精神科医療機関へのプログラム導入支援に関して、下記の学会、研修会等で教育講演、ワークショップの主催、研修講義を行った。

4．結論

各課題いずれも順調に進行している。今後さらに正確なデータ収集を行い、詳細な分析を行うように鋭意進めていく必要がある。

## 1. 研究目的

千葉大学病院精神神経科及び同大学社会精神保健教育研究センターでは、入院時から円滑な地域移行・地域定着を目指した1年未満の退院を支援する診療モデル『New Long Stay 防止統合プログラム』(以下プログラム)を2015年に立案し、2017年2月より千葉市内の200床規模の民間精神科『医療法人学術会木村病院』での実践を主導している。本研究では、このプログラム導入前後各2年間(平成26-27年度と平成30-31年度)における退院促進・地域移行・地域定着について分析し、プログラムの有効性を明らかにする。また、プログラム実施下での職員の実務量や業務負担の変化を明らかにし、既存の精神科病院運営上の人的・医療経済的課題を抽出し、現在の診療報酬体系及び広く他施設で導入するに当たっての課題を提示する。

さらに、他精神科病院への普及を図るための研修会や診療ツールの提供、本プログラムのマニュアル作成などを行い、本プログラムの汎用性を確立する。

## 2. 研究方法

本研究では、『New Long Stay 防止プログラム』導入前後各2年間(平成26-27年度と平成29-30年度)について比較するミラーイメージ研究を通して、本プログラムの有効性や課題を検討し、さらに汎用化に関する方法の開発や課題を探る。

1) 医療法人学術会木村病院へのプログラム導入(伊豫、渡邊、木村、小松)

平成30年度初頭に木村病院にて院内研修会を実施して本プログラムを導入する。

2) プログラム導入による臨床アウトカム

を明らかにする(アウトカム分析研究;伊豫、小松)

・ プログラム導入前後2年間(平成26-27年度と平成30-31年度)における診療統計結果(3ヶ月退院率,12ヶ月退院率,再入院率,退院後3ヶ月以内再入院率,精神科病床数,平均在院日数,退院後外来継続率,1日処方薬剤数,クロルプロマジン換算抗精神病薬処方量,持効性筋注製剤投与率など)を調査する。

3) プログラム導入の医業経営や労務管理への影響の調査分析(医業経営・労務分析研究)(渡邊、木村)

・ 平成30年度にプログラム導入前後およびプログラム準備期間(平成28年度)の医業収支,業務時間(人時・人日),職場のストレス尺度評価,職場の快適度チェックシートなどを調べる

4) 他精神科医療機関へのプログラム導入の支援に関する研究(汎用化に関する研究)(渡邊)

千葉県や千葉市の精神保健福祉関係の行政職員や,旭中央病院,学術会木村病院の医師,精神保健福祉士,訪問看護師,デイケア担当職員,ピアサポーター等の専門技術提供を得て,地域移行・地域定着の方法論共有のための公開講座・研修会,ワークショップ等を主催,または関連学会,研究会,行政等主催の講演を行う。それらを通じて,本プログラム導入の動機づけやインフォーマルネットワークの構築,実践技術の向上を図る。

(倫理面への配慮)

本プログラムはすでに本邦の保険医療として認められている既存の診療技術を集学的な治療支援パッケージにしたものであり,1

つ1つの治療・ケア・支援・相談業務に関して何ら実験的な要素を含まない。しかし、従来の治療ケアとの比較のために、個人を特定しない範囲で、情報の集積を行う可能性があり、研究の実行に際しては、千葉大学及び実行施設である学会木村病院の倫理委員会の承認を得ている。

(医療法人学会木村病院倫理委員会 審査結果通知書 No. 2018-03 )

実行施設では、研究告知ポスターを用いて、広く患者家族に周知している。

### 3. 研究結果及び考察

1)現在、木村病院への本プログラムの導入は通常診療の中に完全に組み込まれており、精神保健福祉士を主体とする入院患者への個別治療チームの早期編成、週に1回の全職種参加の合同カンファレンス、退院前の複数回のケア担当者会議、ケア会議などが円滑に実施されている。また千葉大学医学部附属病院精神神経科と実行施設である単価精神科病院との間で、難治精神疾患患者の治療連携システムについても実務者間での構築が進められている。

2)評価対象となる臨床指標について、データベースを構築し、数値の入力を継続的にを行っている。

3)医業経営および労務管理上の指標について、参照する資料の収集、整理を行っている。

4)他精神科医療機関へのプログラム導入支援に関して、下記の学会、研修会等で教育講演、ワークショップの主催、研修講義を行った。

2018年1月28日 平成29年度千葉県精神障害者ピアサポート専門員養成研修

(もりんぴあ公津)

『精神疾患の基礎知識-当事者も支援者も社会に拡がっていこう-』 渡邊博幸

2018年3月11日 千葉市精神障害者地域移行支援研修会(千葉市総合保健医療センターにて)

『精神科医療のこれまでとこれから-精神障害者の地域移行の観点から-』 渡邊博幸

2018年3月14日 千葉労働局主催障害者就労支援セミナー(千葉教育会館にて)

『発達障害の人の特性と就労支援』 渡邊博幸

2018年5月26日 千葉県精神科リハビリテーション研究会学術集会(千葉大学けやき会館)主催 渡邊博幸

2018年7月21日 日本精神科看護協会千葉県支部研修会(千葉市文化センターにて)

『精神科領域における地域包括ケアシステムについて』 渡邊博幸

2018年8月2日 Chiba-DPA 研究会中央ブロック会(ホテルオークラ千葉にて)

『統合失調症の薬物治療選択と学会プロジェクト』

2018年10月14日 日本デイケア学会第23回年次大会(東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートにて)

教育講演『就労(定着)支援を踏まえた統合失調症の包括的治療』 渡邊博幸

2018年11月7日 入間ゆずり葉の会  
埼玉県精神障害者家族会連合共催講演会  
(入間市民活動センターにて)

『新しい精神科医療のテーマ 暮らしと  
就労を支える &薬のスリム化』 渡邊博  
幸

2018年11月23日 千葉こころの支  
援・実践・研究ネットワーク講演  
(千葉大学いのはなキャンパス 医学部  
同窓会館にて)

『トランス型の多職種連携-対人支援への  
導入と活用-』 渡邊博幸

#### 4. 評価(研究成果)

##### 1) 達成度について

各種臨床指標の収集、整理、データベース入  
力は順調に行われており、すべてのデータ  
入力後、複数の研究者による精査を経て、統  
計解析に供する予定である。

##### 2) 研究成果の学術的意義について

既存の種々の医療技術、福祉資源を組み  
合わせて、多職種協働モデルに基づいた包  
括的な入院診療パッケージを構築できるこ  
と、またその包括的サービスのアウトカム  
を明らかにすることで、新しい

精神科医療モデルを提案することが可能  
となる。

##### 3) 研究成果の行政的意義について

本研究は、広く汎用性のある精神障害  
者入院診療モデルを確立することにより、  
New Long Stay を防ぎ地域移行・地域定着  
を推進する施策に直接反映できる。

##### 4) その他特記すべき事項について

なし

#### 5. 結論

これまでのところ、各課題については順調  
に進行している。正確なデータ収集を行い、  
詳細な分析を行うように鋭意進めていく必  
要がある。

#### 6. 研究発表

##### 1) 国内

原著論文による発表 1件

口頭発表 1件

それ以外(レビュー等)の発表 6件

##### 2) 国外

原著論文による発表 0件

口頭発表 0件

それ以外(レビュー等)の発表 0件

##### ・論文発表

渡邊博幸:統合失調症の予後と転帰は改善  
しているのか? (2018)精神科治療学 33  
(1): 87-93.

渡邊博幸:就労(定着)支援を踏まえた統合失  
調症薬物治療(2018)臨床精神薬理 21(10):  
1363-1370.

##### ・学会発表

2018年10月14日 日本デイケア学会第  
23回年次大会(東京ベイ舞浜ホテルクラブ  
リゾートにて)

教育講演『就労(定着)支援を踏まえた統合  
失調症の包括的治療』 渡邊博幸

#### 7. 知的所有権の出願・取得状況

なし